

宇治・平等院 夏に植物プランクトン繁殖

「極楽の池」美しさ戻れ

草津の企業、バクテリア投入浄化実験

宇治市の平等院が、極楽浄土を体現した鳳凰堂を取り囲む阿字池の浄化に挑んでいる。近年、植物プランクトンが繁殖し、水質悪化に悩まされているためだ。バクテリア(細菌)を投入する実験を昨夏から試みており、改善の兆しが現れ始めた。「極楽の池」は清くよみがえるのか。

阿字池は東西と南北の幅が最 園(国史跡・名勝)の中核をな 平等院によると、5年ほど前 大 約100坪。極楽にある「宝」す。鳳凰堂の正面3棟が水面に から夏の異常な暑さで水温が上 池」を模したとされ、平等院庭 映る姿はよく知られる。 昇し、アオコやアオミドロなど

改善の兆し 本格運用も



①暑さで植物プランクトンが増殖して水が濁る阿字池(2014年7月、宇治市宇治・平等院)＝ウイリステージ提供 ②浄化実験で水質が改善し、底の地面まで透視できるようになった(3月6日)

が増殖。頻発するゲリラ豪雨で肥料を含む庭園の土壌が池に流れ、富栄養化も進んだ。池の水は緑色に変色し、その後、茶色く濁った。

これまで平等院はさまざまな浄化対策を試行、検討してきた。しかし、文化財や遺構が眠る池の底の大規模な浚渫は難しく、人工的に水を循環させると水面が波立って池に鳳凰堂が映らなくなる恐れがあった。

この難題を住宅地開発や親水施設の設計を手掛けるベンチャー企業「ウイリステージ」(草津市)が引き受けた。水中で藻類を破碎する処理装置を用い、納豆菌や乳酸菌などを組み合わせさせたバクテリアを一体で運用して植物プランクトンを分解・除去する独自の浄化システムを導入した。

昨年7月に池の中に処理装置を10基設けて稼働し、バクテリアを計3・5ト投入した。すると水量の少ない鳳凰堂の背面側で水が澄み始め、夏場でも底まで見通せるようになった。今年2月の水質検査では4年前の夏と比べ、ほとんどの指標が大きく改善した。

平等院の宮城宏索事務局長は「単純比較はできないが、一定の効果がみられたのは確か。今夏も実験を続け、うまく浄化できれば本格的に運用する」としている。

(柿木拓洋)